



Title	関西がんチーム医療研究会の歩み
Author(s)	古河, 洋
Citation	癌と人. 2011, 38, p. 19-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/15884
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

関西がんチーム医療研究会の歩み

古河 洋*

【はじめに】

2007年に立ち上がった「関西がんチーム医療研究会」は回を重ねて、7回開催されました。今、医療のなかで「チーム医療」は脚光をあびていますが、一体何であるのか、また、その目的はなんであるのか、を、この関西がんチーム医療4年間の経験から考えてみたい。

【立ち上げ会とメンバー】

2007年6月、がんチーム医療についての研究会を開こうと、呼びかけて、堺市内で立ち上げ会を開催しました。医師（がん治療）、精神科医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、その他病院の職種（MSW、医事課、がん相談、がん登録など）、心理士（学者）、スピリチュアルケア、弁護士、マスコミ（テレビ）、会社（MR）など、50名近くがあつまりました。

会の規則と、会の運営（演題を発表する、論文にする）、NPO堺臨床研究支援センターが財務をみることなどを決めました。

【最初の研究会から7回研究会まで】

まず、MD Anderson Cancer Centerの上野先生に講演してもらい、一体、米国ではなにをやっているのかを聞くことからはじめました。米国では、看護などの専門職が強く、さまざまな権限をもって、臨床試験や臨床の現場でちかちかを発揮していることは知られています。チーム医療の目的は「臨床試験の推進」であると聞きました。

最初の研究会は、堺市内のメンバーの病院（ベルランド総合病院）の講堂で開催しました。演題数は44題、参加者数は150名くらいでした、以下、7回研究会までの内容を紹介します。

* NPO堺臨床研究支援センター 市立堺病院 院長

第1回

当番世話人：田中 晃 近畿大学堺病院外科
福永 睦 市立堺病院外科
亀山雅男 ベルランド総合病院
松並展輝 大阪労災病院外科

日時：2007年9月8日

場所：ベルランド総合病院講堂

（講演）

・「がんチーム医療と医療安全対策」

楠本茂雅 ベルランド総合病院

（一般演題）

化学療法、院内がん登録、ICT、NSTのはたらき、緩和医療、医療現場のコミュニケーション、チーム医療の広がり、など。

第2回

当番世話人：辻仲利政 国立病院機構大阪医療センター外科

日時：2008年3月1日

場所：WTC ホール

（講演）

・「がん患者と自殺」廣常秀人 国立病院機構大阪医療センター精神科

・「がん診療連携拠点病院に期待される医療連携機能を考える－5大がんの地域連携 クリテイカルパス試案－」谷水正人 国立病院機構四国がんセンター外来部長

（一般演題）

緩和医療、医療現場のコミュニケーション、「緩和ケアチームをどう作る、どう運営する」ワークショップ、NSTのはたらき、QOL、臨床研究・CRC、感染・ICT、がん相談、がん登録、外来化学療法センター、

化学療法, がん情報の収集と伝達, など。

第3回

当番世話人: 富田尚裕 兵庫医科大学 外科学講座教授

日時: 平成20年10月11日(土)

場所: 大阪南港 WTC会議場 2F ホール (講演)

- ・「がん地域連携クリティカルパス導入・活用とIT化について」佐藤靖郎 済生会若草病院 副診療部長兼外科部長
- ・「がん診療連携拠点病院における「チーム医療」－がん相談支援センターの視点から－」川崎優子 兵庫県立大学看護学部 実践基礎看護学(治療看護学)
- ・「副作用対策 UP DATE －化学療法と分子標的薬－」阿南節子 市立堺病院薬剤科部

(一般演題)

化学療法, 緩和, 医療現場のコミュニケーション, 医療情報提供, 地域連携パス, 癌登録/がんの医療経済, 感染対策(ICT), あらたな取り組み, 副作用対策/至適投与量栄養サポート(NST), など。

第4回

当番世話人: 原 聡 近畿大学医学部附属病院緩和ケア室 准教授

日時: 平成21年3月11日(土)

場所: 大阪南港 WTC会議場 2F ホール (講演)

- ・「わが国のがん対策－個人として, 国として－」垣添忠生 日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長
- ・「がん医療におけるコミュニケーションスキル－悪い知らせをいかに伝えるか」藤阪 保仁 大阪医科大学附属病院呼吸器内科
- ・「外来化学療法センター(ATC)における取り組み」今村博司 市立堺病院化学療法科部長

(一般演題)

化学療法, 放射線治療, 緩和ケア, NST, がん情報の伝達, がん患者に対する取り組み, 医療現場のコミュニケーション, リスクマネジメント, がん登録, がんの医療経済, 禁煙, 抗癌剤治療の適正化, 在宅ケア, 病診連携・病病連携, リハビリ・ストマケア, など。

第5回

当番世話人: 中根恭司 関西医科大学枚方病院外科教授

日時: 平成21年10月10日

場所: 大阪南港 WTC ホール (講演)

- ・「外来がん化学療法と薬剤師の関わり」倉田義昭 東住吉森本病院薬剤科長
- ・「胃癌に対する地域連携パスの現状」梨本 篤 新潟県がんセンター 新潟病院外科
- ・「抗癌剤レジメン管理の充実に向けて－静岡がんセンターでの取り組み－」篠 道弘 静岡県立がんセンター薬剤長
- ・「大阪がん医療の向上をめざす会のはたらきと目標－患者の求める医療情報とその伝達について」濱本満紀 大阪がん医療の向上をめざす会運営委員

(一般演題)

化学療法, 外来化学療法・薬剤費, CRCのはたらき, キャンサーボード, 医療情報の伝達, がん登録, NSTのはたらき/ICTのはたらき, 緩和医療, 医療現場のコミュニケーション, 病診連携・連携パス, 放射線治療, など。

第6回

当番世話人: 田伏克惇 国立病院機構大阪南医療センター

日時: 平成22年3月27日

場所: 大阪南港 WTC ホール (講演)

・「中国におけるがんチーム医療」
唐 偉 東京大学医学部附属病院肝胆
膵外科助教 中国四川大学 華西医学中
心兼職教授

・「がん診療連携拠点病院による大阪府統
一型地域連携パス」東山聖彦 大阪府が
ん診療連携協議会, 地域連携クリティカ
ルパス部会部会長 大阪府立成人病セン
ター 呼吸器外科主任部長

東アジアがんチーム医療研究会 (英語, 日本
語: スライドは英語) (同時通訳)

(1) Role of Nurse

Miyuki Niimi (Kyoto University)

Jae-Jin Cho (Seoul National University
Hospital)

1) 「Role of Coordinator in Treatment
of Gastric Cancer at High Volume
Center」

Jae-Jin Cho

Coordinator of gastric cancer center
(Seoul National University Hospital)

2) 「Role of Nurse on Clinical Study」

Bo Kyoung Ku,

Clinical Nurse Specialist Asan
Medical Center

3) 「Security precaution concerning anti-
cancer drug handling」

Kentaro Terui

Department of Nursing, Iwamizawa
Municipal General Hospital,
A Certified Nurse of Cancer
Chemotherapy Nursing

4) 「A role of Nurse in Ambulant
Treatment Center」

Rumi Sumita

Clinical Nurse Specialist, Sakai
Municipal Hospital

(2) Role of Pharmacist 10:35-11:15

Setsuko Anami (Sakai City Hospital)

JongHee Ko. R.Ph., MS., BCOP (Yonsei
University Health Care System)

1) 「The pharmacist role in cancer
treatment, Korea」

JongHee Ko. R.Ph., MS., BCOP

Satellite Pharmacy, Yonsei University
Health Care System

2) 「Role of Pharmacist in Ambulatory
Treatment Center」

Chika Fujii

Department of Pharmacy, Sakai
Municipal Hospital

Board Certified Oncology Pharmacy
Specialist

(3) Role of Psychooncology 11:15-12:10

Chie Kanagawa (Outemon University)

Uichol Kim (Inha University luncheon)

1) 「Self-efficacy, social support and
subjective well-being: Providing team-
based healthcare to patients with
severe illness」

Uichol Kim PhD

Inha University Incheon, South
Korea

2) 「The Role of Psychooncology in Lung
Cancer」

Akihiro Tokoro, MD

Department of Psychosomatic
Medicine, Supportive & Palliative
Care Team

National Hospital Organization Kinki-
chuo Chest Medical Center, Osaka,
Japan

3) 「The Role of Spiritual Care at Secular
Hospitals」

Yozo Taniyama

Professional Association for
Spiritual Care and Health

(一般演題)

ワークショップ「臨床試験」, 化学療法/
がん登録, がん相談/患者会, 地域連携パス
/レジメン登録, 緩和ケア, デスカンファ

レンス／コミュニケーション，コミュニケーション／旅立ち，など。

第7回

当番世話人挨拶：市立岸和田市民病院
副院長 小切 匡史

日時：平成22年9月18日

場所：大阪科学技術センター ホール
(講演)

- ・「診療報酬改定とチーム医療について」
牛尾茂爾 市立堺病院医事課
- ・「大阪府におけるがん対策」永井伸彦
大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課長
- ・「大阪府がん登録からみたがん治療の問題点」津熊秀明 大阪府立成人病センターがん予防情報センター
- ・「外来化学療法を円滑に進めるためのチーム医療」慎玉姫 近畿大学医学部病院看護部

(一般演題)

臨床試験／化学療法，緩和医療，ワークショップ「関西におけるがん地域連携パスの現状」，ICT／NST，がん相談／IC，地域連携，放射線治療，がん登録／患者会から／禁煙，認定／専門の役割，患者ケアの工夫，など。

[演題のテーマ]

一般演題のテーマは，化学療法，院内がん登録，NSTのはたらき，緩和医療，医療現場のコミュニケーション，チーム医療の広がり，QOL，臨床研究・CRC，感染・ICT，がん相談，がん登録，外来化学療法センター，がん情報の収集と伝達，医療情報提供，癌登録／がんの医療経済，副作用対策／至適投与量，放射線治療，がん患者に対する取り組み，リスクマネージメント，禁煙，抗癌剤治療の適正化，在宅ケア，病診連携・病病連携，リハビリ・ストマケア，など参加職種によって多彩である。その中で，職種を越えた協同作業が「がんチーム医療」の

基本であるといえる。

[新しいメンバー]

新しいメンバーとして，患者会，行政がある。患者会は多くの場合，専門家の講演，意見を聞くスタイルではないかと思われるが，ここでは自分（患者会）の考えやその活動をはなしてもらった。講演のスタイルもなるべく，科学論文風にしてもらった。

行政からは，新しい情報をはなしてもらうために，「講演」として別に枠をとった。

行政の情報は重要であるが，日常の臨床の中で，即，反映できるとは限らない。ここに行政の参加があれば，患者さんにいちはやく還元することができる。

[これからの課題]

がんチーム医療研究会は，多くの学会でいわれているように，多職種が関わる共同作業を実現するものであってもよい。しかし，MD Anderson Cancer Centerで言われ，行われている「臨床研究の推進」のように，明確な目的をもっているともっと有効な活動ができると考える。

[優秀演題の論文化]

第1回関西がんチーム医療研究会

- (1) 蓑田正豪，西川正治，村田省吾，中村健介，岡原和弘，岡原 猛，藤田 環，玉井良胤，樋上 忍： 堺市医師会における在宅医療情報システムの構築。癌と化学療法 35(8):1353-1355,2008.
- (2) 藤井千賀，阿南節子，藤野美佐子，安井友佳子，藤田麻紀子，井上美樹，中山貴寛，神垣俊二，龍田真行，古河 洋： Capecitabine 投与患者における手足症候群のマネジメント。 癌と化学療法 35(8):1357-1360,2008.
- (3) 今村博司，阿南節子，渡部みゆき，岸本朋乃，宮崎安弘，加藤 仁，臼井辰彦，榎谷誠三，輦津浩一，古河 洋： 胃癌

術後補助化学療法における S-1 の地域連携クリニカルパスの導入。 癌と化学療法 35(8):1361-1365,2008.

- (4) 安井友佳子, 西口智子, 山本明紀, 藤井千賀, 藤野美佐子, 柘植麻紀子, 大野雅子, 東 純一, 松村多恵, 大里浩樹, 阿南節子, 古河 洋: S-1 と Warfarin の併用により出血傾向となった 1 症例。 癌と化学療法 35(8):1367-1370,2008.
- (5) 香月 晶, 松本明子, 鎗野りか, 鍵岡均, 山岡義生: 緩和ケア領域における精神科医の役割。 癌と化学療法 35(8):1371-1374,2008.

第 2 回関西がんチーム医療研究会

- (1) 濱 卓至, 山本 傑, 阪口 聡, 中西文彦, 宇田祥子, 森本茂文, 田路章博, 上田育子, 野田さつき, 高橋博貴, 大池教子, 濱寛子, 西牟田美香, 田伏克惇: がん診療連携拠点病院における緩和ケアチームの立ち上げと取り組み—大阪府南河内二次医療圏モデル—。 癌と化学療法 36(5):887-891,2009.
- (2) 弘津美咲, 相馬道朗, 高木秀彦: MR のチーム医療へのかかわり。 癌と化学療法 36(4):693-695,2009.
- (3) 香月 晶, 小笠原一能, 宮田暢子, 吉岡千波, 山岸 洋: サイコオンコロジー専門外来の報告と課題。 癌と化学療法 36(9):1511-1514,2009.
- (4) 越野美紀, 坂井千恵, 小倉隆文, 河崎晃子, 福里富美子, 宮崎安弘: がん化学療法時の口腔ケアによる口内炎予防効果。 癌と化学療法 36(5):447-451,2009.

第 3 回関西がんチーム医療研究会

- (1) 鳥井隆志, 櫻井美由紀, 見上千昭, 小野美華, 林百合子, 勝谷雅子, 白井純一: 外来化学療法患者の栄養素・食品群摂取量に関する実態調査。 癌と化学療法 37(1):93-98,2010.

- (2) 松岡弘道, 大塚正友, 小山敦子, 波多邊繁, 船井貞往, 田中 晃: 心療内科医の緩和ケア領域における役割。— 2 症例からの考察—。 癌と化学療法 37(2):359-362,2010.
- (3) 山口瑞彦, 小川智孝, 渡部みゆき, 阿南節子, 神垣俊二, 西川直樹, 小野敏明, 古河 洋: 抗癌剤治療に伴う悪心・嘔吐に対する MAT を用いた評価。 癌と化学療法 36(10):1691-1696,2009.
- (4) 岩崎浩子, 廣瀬雄司, 森田哲也, 松岡弘道, 大塚正友: 当院でのがん性疼痛管理におけるオピオイド製剤とその併用薬剤について。 癌と化学療法 36(8):1391-1393,2009.
- (5) 豊田泰弘, 中山富雄, 津熊秀明: 大阪府における癌在宅死の動向。 癌と化学療法 36(7):1131-1134,2009.

第 4 回関西がんチーム医療研究会

- (1) 井上健太郎, 佐藤睦哉, 中根恭司, 三木博和, 向出裕美, 道浦 拓, 徳原克治, 権 雅憲: 疾病連携による術前腹腔鏡検査の有用性。 癌と化学療法 37(3):479-481,2010.
- (2) 古垣内美智子, 今野元博, 金星智世, 米本圭祐, 鷹家優美子, 下川てるみ, 井本真由美, 森嶋祥之, 内藤昭智, 上石谷俊法, 荷掛 恵, 七篠 恵, 松林輝代子, 加戸聖美, 原 聡, 中川和彦, 西村恭昌, 奥野清隆, 塩崎 均: がん患者への臨床検査技師の取り組みを考える—がん患者と家族を対象とした「がん治療と臨床検査」の講演後のアンケート報告から—。 癌と化学療法 37(3):555-558,2010.
- (3) 星 育子, 渡邊裕之, 中井由佳, 山崎圭一, 亀山雅男: レジメン管理と安全ながん化学療法実施への薬剤師の取り組み。 癌と化学療法 37(2):363-367,2010.